ミフードバンクみみはらミに100人以上が来場

目立った「生理の貧困」

大阪南部支えあいプロジェクト「フードバンクみみはら」を6月13日、耳原旭ヶ丘会館で開催しました。

地域の皆さんや、地元の業者、福島の農民連などから寄せられた食品、日用品で会場はいっぱいになりました。60人を超す方が、ボランティアに応募してくれました。

「ちらし見たよ」「近所でやってくれて助かる」と100人以上の方が来場されました。

お米などの基本セットを受け取った後は、種類ごとに分けられた食品、調味料、お菓子、洗剤やトイレットペーパーなどを選びます。ボランティアさんの丁寧な説明と、種類、量の多さに迷う人も。最後にアンケートに答えてくれた方には、お弁当をお渡ししました。

このお弁当は、高次脳機能障害当事者の会「堺チャレンジャーズ」の皆さんが、「協力したい」と申し出ていただき、100食以上を準備していただいたものです。

皆さん、両手いっぱいの荷物に満足げに帰られました。

会場の耳原旭ヶ丘会館▶

▼会場周囲には案内係

◀田端理事長がおわりのあいさつ

会場風景

◀多くの方がアンケートに応じてくれました

▼お弁当は堺チャレンジャーズにご協力いただきました

アンケートでは、80%の人が「コロナで生活が苦しくなった」と答え、「物価が上がり、生活が苦しい」「子どもがアルバイトできず、仕送り額が大幅に増えた」「給付金10万円はまた欲しい」「75歳以上の医療費2割負担反対」などの切実な声が寄せられました。特に「生理用品が買えない」「生理用品にかける費用が負担」など、最近話題になっている「生理の貧困」に関する要望が目立ちました。

最後になりましたが、様々な形でご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

健診の現場から —19—

緊急事態宣言やまん延防止策など、日常生活に大きな制限がかかっており、「コロナ疲れ」という言葉もちらほらと聞かれるようになりました。しかし、この状況下でも医療関係者は、皆様の命や健康を守るべく日々、努力をしています。その中で耳原総合病院の健診科は、皆様の健康を守るお手伝いをしています。

「健診」というと、どのようなことを連想されますか?身体測定や採血、胃カメラなどの検査、もしくは痛い、怖いことをされるなどのイメージをお持ちの方もいらっしゃるのではないでしょうか?実際、健診は普段知ることのできない身体の状態を把握することができます。

その一つとして、健診の診察で大動脈瘤が見つかったケースです。その方は、紹介先の病院で早期に手術を受けることができ、大事には至りませんでした。大動脈瘤は自覚症状がないまま、大きくなる場合がほとんどです。そのため大動脈瘤に気付かないまま突然破裂し、緊急手術が必要となる場合もあります。しかし適切なタイミングで手術を受ければ、成功率がきわめて高い手術でもあります。

また高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病は、自覚症状に乏しく、足音なく近づいてきます。生活習慣病は、未然に防ぐことで脳梗塞や心筋梗塞などの重大な病気を予防することができます。そのため、定期的に健診をすることがとても大切になります。

定期的な健診で健康力を高めよう

耳原総合病院の健診科では、生活習慣病を予防するためにリスクが高い人には、医師や保健師、人間ドックアドバイザーの資格を持った看護師が保健指導を積極的に行っています。

自分の健康をより良くするために、今の生活に10分多く身体を動かす、+10(プラス10)やバランスの良い食事、質の良い睡眠、そして定期的な健診により健康力を高めていきましょう。

(耳原総合病院　保健師　植山樹里)

堺勤美展

緊急事態宣言の延長に伴い、開催期間が変更になりました

会期：後期(彫刻・陶芸、写真)
7月21日(水)～7月24日(土)　10：00～17：00
会場：堺市立文化館ギャラリー
(JR堺市駅前ベルマージュ弐番館)

健康友の会みみはら中区写真同好会と新金岡写真同好会で「堺写真友の会」として出展します。